TREE Digital Studio

カラーグレーディング室を新設

HDR制作を強化

TREE Digital Studio（東京都渋谷区）のポストプロダクション部門であるDIGITAL GARDEN事業部は、広尾MTRビルで稼働する「Bay301」を新設した。同室はTREEで最大の広さを備えるフラッグシップ的なカラーグレーディングルーム。高輝度表示が可能なソニーの31型4K液晶マスターモニターを導入し、カラーグレーディングにおける表現の幅を広げている。

Bay301

Bay301は、ブラックマジックデザインの「ダビンチリゾルブ」をメインシステムとするカラーグレーディングルーム。CMやミュージックビデオ（MV）をはじめとした作品のグレーディング需要が高いことから新たに開設した。

同室はゆったりとした広さが特徴で、監督やカメラマンが快適に作業できるスペースを確保した。

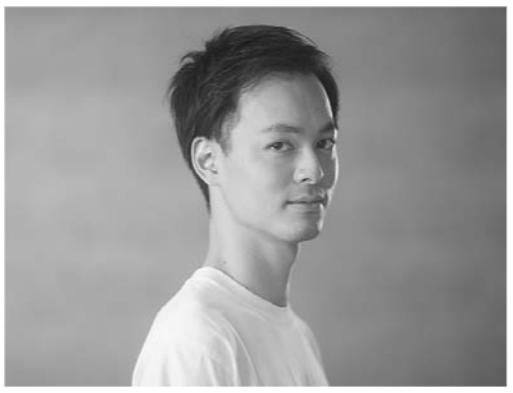
マスモニはBVM―HX3110

制作担当者の席も余裕があり、室内の作業を見渡すことができる。

マスターモニターはソニーの新しい「BVM―HX3110」を設置した。同機は全白時100cd/m²、ピーク輝度4000cd/m²の高い輝度表現が可能。HDR映像に対応し、暗部からハイライトまで黒つぶれや白飛びのない表示ができる。

小木曽氏

同社でテクニカルディレクターを務める小木曽功治氏は「HDRコンテンツは配信プラットフォームで増えており、HDRでは特に自然光の表現を生かした映像を制作できる。HDR映像をマスターモニターで正確に見られる環境を準備することによって、顧客や監督、撮影監督が求める映像を実現するサポートをしたい」と説明する。



足立氏

同機はまた動画応答が高速なうえ、視野が従来よりも広がったことにより、複数人でもストレスなく1つの環境で同じ映像を確認することができる。

カラリストとしてCMやMV制作に携わっている同社の足立悠介氏は「カラーグレーディング時、撮影監督は通常隣の席に座ってモニターを見ているが、監督は少し離れたところにいることも多い」として、「多少斜めから見ても色転びがないので、広い部屋で作業しても、仕上がりのイメージをその場のスタッフ皆で正確に共有でき、作業をスムーズに進められる」と使い勝手の良さに期待する。

クライアントモニターは、ソニーの4K有機ELテレビ「ブラビアA95Kシリーズ」55型を設置。モニタリング環境を統一するため、同社が2つの拠点（広尾プラザビル、広尾MTRビル）で運用する計20以上の編集室・カラーグレーディング室も、一斉にクライアントモニターを同機に変更した。

波形モニターは、HDR信号の管理に対応したリーダー電子の「LV5350」3式を採用した。同社は定期的に、全室でキャリブレーションを実施しており、正確な色管理をする体制も整備している。

足立氏は最近の広告映像の傾向について「派手なものが好まれていた時期もあったが、現在はよりクオリティーの高い映像を撮影し、さらにそれを過剰にすることなくナチュラルに表現することが多い」として、正確なモニタリング環境を整備することの必要性が高まっていると説明する。小木曽氏も「広告映像でHDR制作することは多くないが、さまざまな分野の作品を手掛けながら、HDR制作の機会を増やしていきたい」と話している。